

第1回専門部会(9/5)での意見要旨

【貧困について】

テーマ	委員からの意見	事業反映の可能性など
移動手段・交通手段の格差と子どもの機会格差	<ul style="list-style-type: none"> 生活保護世帯は自家用車がなく、部活動などの妨げになる 送迎できる人と出来ない人で、少年団や部活動に差が見られる。 乗り合いも、昔よりも責任に対してシビアになっており、肩身の狭さを感じて頼みにくく、また、引き受けにくい。 低所得者は、経済的な問題から選択肢（部活など）が狭まれ、子どもは最初からあきらめてしまう（希望が伝わらない）。 送迎負担など、忙しい高所得者には時間がないなど所得の高低だけではない機会格差がある。 無料学習会（Sスタディ）も会場までの交通手段を考えて、最初から参加しない子どものもいると想定される。 子育て世帯に対するニーズ調査から、サービスが狙っているターゲットにサービスが届いていないことが判明している。 	
プラットフォームは学校	<ul style="list-style-type: none"> 子どもは自分からSOSを発信できない、それに気付けるのが学校。 親を介さなくても子ども自身が体験できることが必要、それが可能なのは学校ではないか。 安価又は無料の体験にも、先生からの一言があれば参加は進むと思う。 	
保護者の意識の低さと貧困	<ul style="list-style-type: none"> 意識が低いから所得が低いという側面もある。今は正社員の道も拓けていて望めば叶う環境にあるのに、責任を持ちたくない、休みづらくなる等の理由であえて非正規を選ぶ人も少なくない。そういう人に対する支援は難しい。 金銭的支援は子どもに行かない。生活費やパチンコ代になっていることもある。 	
貧困の連鎖を断ち切る	<ul style="list-style-type: none"> 体験機会を増やし、（経験不足もふくめた）貧困の世代間連鎖を断ち切りたい。 教育への参加意欲の低い層に、いかに現物支給していくかが課題 親を責めない、親の手を借りずに、子どもに直接アクセスする。 体験事業の目的を先生が理解して学校現場で直接伝えるワンプッシュ解説も大事。 子ども会や児童館行事は子育て世代が参加して、子どもの心をくすぐる魅力付けが必要。 	
児童館の専門性	<ul style="list-style-type: none"> 児童館では年齢に応じた活動が出来ないため、楽しくない。楽しくないから行かないとなる。職員に専門性が感じられない。 年齢が上がれば世界は広がり、児童館だけが過ごす場所ではなくなるのは自然なこと。 	
子ども・子育てプラン、専門部会の役割	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のサービスが良くわからない」のパーセントを下げるために何をすべきか、参加しようと思わないパーセントをどう下げていくか、その層へのアプローチ、動機付けはなにかを考え、届きにくい人たちにサービスを届けることが目標になる。 	

【児童虐待について】

テーマ	委員からの意見	事業反映の可能性など
情報連携	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市の事例の場合、区を移動すると情報伝達が難しくなる。 情報は点で存在し、子育て支援センターや児相に繋ぐかどうか迷っているものが多いと思う。 子どもがおとなしいと大丈夫と感じてしまう。虐待の事例を見ると、もう少し早く気づき、拾い上げられなかったかなと思う。 岩見沢は機能的に動いているが（教育支援センターと学校、子育て支援センターとの連携など）それでも漏れているものがあるのだと思う 	
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントを困難にするのは現場の取りこぼし。痣やケガの証明のほか、メンタルに対するアプローチは難しい。 保育園や学校など普段関わるものが悪者にならないよう、医療が入るなどのアプローチが必要。 点の情報を集約して線や面にしておけるシステムを持ちたい。 ケース会議後の見守り、「便りの無いのは良い便り」ではだめで安全な状況を確認したうえで終結。 保護者、児童デイなど担当者が変わるときなど、誰が責任者なのかあいまいになりやすい。相談支援事業所などが情報を集約するなど自覚が求められる。 	
被虐待児童のケア	<ul style="list-style-type: none"> 被虐待児本人に対するメンタル面のアプローチが難しい（市立病院に臨床心理士がいないので） 児童養護施設に来る子どもの6割強が被虐待児。親はみな「しつけ」だと言う。施設に来るまでのダメージが大きく、集団になじめず学力も伸びない。 	
いじめの定義になった組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめの定義は幅広くなり、学校全体で点の情報を拾いあげ認識し、全件組織的に対応している学校が良い評価を受けているになっている。 	
親の孤立を防ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 親だけが子どもを育てるわけではないというイメージを伝え、良い親になりたいと思う大人の孤立を防ぐ。 	
児童相談所の実情	<ul style="list-style-type: none"> 情報をうけて動くことになるが、担当者は少なく手が回らない。人数に限られ、現地に赴くのがハードルになっているため、地域（行政）の中である程度観てほしいと思う。 学校や保護者などから地域で起こっている点在する情報を1か所にまとめることができれば良い。 	